

【一次産業を中心とした地域づくりについて】

E： 中土佐町、大正市場の活性化ということで、商店主5人で飲食店を共同経営して、町を盛り上げています。また、「かつお祭り」の実行委員もしていますが、久礼のまちおこし企画を自分たちでやってみたいと企業組合「ど久礼もん」という会社を友達と4人で立ち上げて、4年目になります。

この「ど久礼もん」は、去年の夏ぐらまでは、自分のポケットマネーを出さないといけないような状況でした。それでもまちおこしを続けたいと、皆でお金を出し合っているところで、ラー油を使った商品がたまたま大当たりして、今事業的には成功という形になっています。

問題としては、鮮魚店が成功する、めし屋が成功する、「ど久礼もん企業組合」が成功する、それが現実、一次産業で暮らしている皆の生活を本当にサポートしているのかということです。同級生が漁師を辞める、辞めざるを得ない、その横で、我々商売人はお金の面でそれなりの結果を出して生き残っていく、その形が続く限り、本当に久礼で暮らしていけるのだろうか、今、何とか事業が落ち着いた段階で壁にぶち当たっているところです。

もともと田舎では、まず、一次産業、海、山、田畑を守って暮らしている人たちがいて、その上で商売人がお金を動かしているということが当たり前だったんだろうと考え始め、魚屋や「ど久礼もん」が成功し続けても漁師たちが最終的にいなくなったら、我々が存在する価値がないと思ったのです。

漁師が釣ってきた魚を魚屋が買って、東京や大阪に売る。付加価値を付けて一生懸命売った利益の大部分は、商売人が取ってしまうから一次産業が残らないんです。

一生、地元で暮らしていくことを選択している我々は、子どもに勉強をさせて、東京に行って、一流企業に就職してくれたら親としては安心しますが、地元に残る人間がいなくなります。だから、我々親が楽しく海と山と魚と一緒に暮らす方法、高齢者と暮らす方法をもう1回作り直さなければならないと、最近、メンバーと話しています。

久礼では、一次産業を育てるための6次産業化ということが基本になってきます。やはり、目標をしっかりと一次産業に絞って、そこをサポートしながら一緒に暮らしていく方法、その仕組みづくりが大切なのではないかと考えています。

知事： 私も、一次産業の柱があって、その関連産業が裾野のように広がっていくという順番が大事だと思います。

なぜかと言うと、高知の強みというのは、おいしい魚、カツオが獲れるという一次産業が出发点です。そこに、付加価値の根源があって、例えば地元に来て、おいしい「カツオのたたき」を味わってもらおうという方法もあるだろうし、地産外商で、「ど久礼もん」さんのような形で、地元で獲れた魚を加工し、外に売っていく場合もあります。

やはり、真ん中に一次産業があることが重要で、いくら「ど久礼もん」さんが売れても、地元でカツオが一切獲れないようになってしまったら、今度は「ど久礼もん」さんの商売

が成り立たなくなりますからね。地元の漁師さんが釣った、地元の魚を使っているから成り立つんだと思います。

さきほども地域拠点ビジネスの推進として申し上げましたが、「ど久礼もん」さんが取り組んでいるように、一次産業を中心にして、地区地区で加工まですることが非常に重要だと思っています。

しかし、高知の場合は加工する工程が地区どころか、原料を提供するだけで、県外で加工して売るといった形が多いです。できるだけ地元で付加価値を付けて、お金が地域で回り還元されるような、地域で一次産業の担い手が残っていけるような形というのを是非目指したいと思います。

**E :** 私は漁師やカツオ船を地元に残すということを最終的な目標にして、漁師が釣ってきた魚を研究、商品の開発、宣伝、販売して、漁師が利益の配分を受けられるような事業体を作るのが夢です。地元の漁師の考え方などもあるので、そこを変えてもらうのに苦労はしていますが、この4年ぐらいで少しは変わってきたと思います。

知事： 「ど久礼もん」さんのおかげでだいぶ変わってきたんじゃないですか。ラー油がTVで紹介されて、大ヒットして、「まるごと高知」もかなり応援してもらいました。是非、地元で付加価値を付けて、地元で利益を還元するということを進めていってほしいです。

高知県は、日本全体の下請けになっているようなところがたくさんあります。例えば、土佐茶なんかもそうです。静岡茶がなぜうまいかと言うと、土佐茶とブレンドしているからだと言われるけど、静岡茶を売る時に土佐茶の名前は出てこないです。そのようなこともあって、今、「ブレンドからブランドへ」と「土佐茶」として発信し始めた。自分達で付加価値付けて発信するというのを、こういう田舎ほど出来るようにならないといけないと思います。地産外商であることが重要だと思いますので、是非、一緒に頑張りましょう。